第５学年　道徳学習指導案

指導日時　平成１８年　７月　５日〔水〕　５校時
指導学級　５年４組　男子14人　女子17人　計31人
指導者　　髙　橋　　佳　子

１　総合単元名　　心を一つに

２　総合単元のねらい
集団の活動に進んで参加し自分の役割と責任を果たすとともに、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

３　総合単元について
子どもたちは5年生でクラス替えがあり、新しい仲間とどのように関わっていけばよいのか不安を抱えながら動き出したところである。新しい学級が楽しいと感じている児童は多いものの、前学年の友達や学級にこだわったり、自ら集団の活動に参加せず他人任せにしたりするなど学級への所属意識の薄い児童も見られる。また、自分の仕事はするものの、終わった後にまだ他の児童が働いていても手伝おうとしなかったり、相手の気持ちを考えずに失敗を責めたりするなど、お互いが相手の気持ちや立場を考えながら協力していこうとする意識の薄い児童もいる。
そこで、自分たちの学級や身近な集団の活動に進んで参加し自分の役割と責任を果たすとともに、お互いの立場を理解し協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てたいと考え、総合単元として「心を一つに」を設定した。
本単元ではまず、学級目標を「一致団結」と決め、年間を通して「思いやりの心を持ち、友達と協力すること」を意識付けさせていきたい。また、運動会や野外活動などの行事を通し、友達と協力していくことの大切さを感じ取らせていく。道徳の時間には前時に男女の協力に関わる資料をもとに男女わけ隔てなく協力していくことの大切さに気づかせるとともに、本時ではワールドカップの日本代表がお互いの意識のずれを乗り越えワールドカップ出場を勝ち取ってきた姿に触れさせていくことでねらいに迫っていく。そしてそれをもとに事後の学習では、学級の仲間と力を合わせて行う活動を取り入れていくことで、実践へと広げていきたい。

４　総合単元の構想　　（◆めあて　◇ねらい）

	時期	意識の流れ	教科・総合	特別活動	日常活動	家庭・地域
事前の学習	4月 5月 6月	・クラス替えがあった。友達と離れてしまったな。学級は楽しいかな。 ・学級目標がきまった。いいクラスになるといいな。 ・組み体操は、皆が力を合わせないと成功しないんだな。 ・応援団もがんばっているから私もがんばろう。 ・ウォークラリーは皆で知恵を出し合ってなんとかゴールできた。 ・かまど係ががんばってくれたから、カレーが早くできた。 ・男女仲良く協力することはいいことだな。	体育「組体操」 ◆組体操を成功させよう。 ◇自分だけでなく、友達もがんばっていることを意識付ける。 道徳の時間（1時間） 主題名　お互いを大切にしながら　２－（３）友情・信頼、助け合い 資料名　「ことばのおくりもの」 ねらい　お互いに信頼し、男女仲良く協力して助け合おうとする心情を深める。	学級目標 ◆学級目標を決めよう。 ◇思いやりを持って協力していくことを意識付ける。 運動会 ◆運動会を成功させようよう ◇責任や協力が大切であることに気づかせる。 野外活動 ◆野外活動を成功させようよう ◇責任・協力・友達のよさに目を向けさせる。	帰りの会 ◆友達のよさを見つけよう ◇友達のよさを理解し合い、認め合うことができるようにする。	学級通信 ◇学級の目標や、学級で取り組んでいることを家庭に知らせ、励ましや協力を得ていきたい。
本時の学習	7月 1週	・日本代表でも心を一つにしていかないと勝つことはできないんだな。 ・話し合いをしたから勝つことができたんだ。 ・進んで話し合いをすることは大切なんだな。	道徳の時間（本時） 主題名　チームのために　　４－（１）集団への主体的な関わり 資料名　「チームが一つになった夜～サッカードイツワールドカップへの道」 ねらい　集団の一員として、集団の向上に主体的に関わって協力していこうとする心情を育てる。			
事後の学習	2週	・学年レクに向けて、みんなで心を一つにがんばろう。		学年レク ◇仲間と力を合わせて取り組ませる。	日記 ◇協力してできたことを振り返らせ、新たな意欲を持たせる。	学級通信 ◇学級での様子を知らせ、家族にも認められることで意欲につなげる。

5　本時の指導

（1）　主題名　チームのために　　（4－〔1〕　集団への主体的な関わり）

（2）　資料名　「チームが一つになった夜　―ドイツワールドカップへの道―」　　出典：「小6教育技術」小学館　（一部削除）

（3）　ねらい　集団の一員として、集団の向上に主体的に関わって協力していこうとする心情を育てる。

（4）　主題設定の理由

ねらいとする価値について

指導内容・高学年4－〔1〕は、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」である。この内容は、集団と個のかかわりの基本を述べたものであり、身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たす児童を育てようとするものである。これは、高学年で初めて出てきた内容項目であり、中学校での4－〔1〕「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。」へ発展していくものである。

本時では、上記の内容の中から、児童の実態を受け「集団の一員として、集団の向上に主体的に関わって協力していくこと」にねらいをしぼり指導していく。所属する集団が、学級から、学校のクラブや委員会活動、地域での各種少年団などへと広がりを見せるこの時期をとらえ、「集団の構成員である自分は、集団の向上に大きく関わっているのだ」という自覚を持たせ、人任せにするのではなく、主体的に意見を出したり協力したりして集団の向上を目指していくよう指導していくことが大切であると考え、本主題を設定した。

資料について

本資料は、サッカーの日本代表チームが、それぞれの選手の作戦に対する考え方の違いを話し合いで乗り越えて、チームワークを高めワールドカップ出場を決めるという内容である。

本資料には本時にねらう価値のほかにも、役割の自覚、異なる意見の認め合いなどの価値が含まれていると考えるが、ここでは、チームの変容をもたらした「選手たちが話し合いを持つ」という場面に焦点を当て、主体的に集団の向上に関わるという価値に焦点をしぼって扱っていく。

また本資料は、キャプテン宮本を主人公ととらえ、宮本に焦点をあてて意識の流れを考えさせることもできるなど、多様な展開が考えられる資料である。ここでは、特に主人公を特定せず、児童に、守備陣、攻撃陣の双方の考えを考えさせることにより、意思統一の必要性に気付かせていきたいと考える。

本資料は、日本代表チームの現状を変えるために、選手が進んで話し合いをしていったことを取り上げることにより、よりよい集団を作っていくためには、主体的に集団の向上に関わっていくことが大切であるということに気付かせていくのに適切な資料であると考える。

支援のポイント

「気づく」において

○ワールドカップの舞台に立った選手たちの様子を見せ、感想を交流することで、資料への動機づけを図る。

「とらえる」において

○守備中心の練習をし、勝利への手ごたえを感じ始めた選手の気持ちを考えさせることにより、選手の前向きな気持ちに共感させる。

○守備陣と攻撃陣の気持ちを考えさせることで、お互いの考えを理解できず、不安になっていく選手の気持ちに共感させる。

○不安な中でなんとかして意思統一をして状況を打開したいと、積極的に話し合いをもったメンバーの気持ちを考えさせることで、主体的に集団の向上に関わる大切さに気付かせて価値をつかませる。

○主体的に話し合いを行い、意思統一を図ったことが勝利につながったことに気付かせ、価値を深めていく。

「見つめる」において

○集団の向上のために行ってきた経験を道徳ノートに書かせることで、自分の生活を振り返らせねらいに迫りたい。

「あたためる」において

○息の合った試合の様子を紹介することで、自分もみんなと協力していこうという心情を持たせる。

ねらいとする価値に関わる児童の実態

児童は野外活動で、自分の係や分担された仕事をしっかりと行うことの大切さや、テント作りやカレー作りの際に協力し合うことの大切さを実感することができた。しかし、事前の準備や計画段階の話し合いでは、リーダーシップを取って積極的に話し合いを進めていく児童もいるものの、本気で考えようとせず人任せにしている児童も多い。また、自分の意見ばかりを主張して、なかなか相手の考えや気持ちに寄り添っていけない児童もいる。これは、まだ児童に、「自分は学級の一員として、学級をよりよくするために努力したり協力したりしていくのだ」という意識が薄いことが原因と考えられる。

そこで児童に、集団の一員として、集団の向上に主体的に関わって協力していこうとする心情を育てていくことが大切と考える。

（5） 資料分析図

場　　面	登場人物の心の動き	子どもの意識	発問の意図／発問
・ 日本代表チームは、重要な試合の前に連敗していたが、その反省を生かして守備中心の練習をし、勝利への希望が持てるようになっていた。	・これだけ練習したんだからもう大丈夫だ。 ・今度は勝てるぞ。 ・自信が出てきたぞ。	・ 作戦を立てたから大丈夫だ。 ・ 厳しい練習を繰り返しているんだから今度は勝てそう。 ・ 次は勝てればいいな。	連敗を脱出できそうだという希望をもって努力している選手の前向きな気持ちに共感させる。 ○「これならいけそうだ」という手ごたえをつかみ始めていたときの選手たちはどんな気持ちだったでしょう。
・ しかし、海外から合流してきた攻撃役の選手たちは、その作戦を知らずに、どんどん前へ攻めていったため、ボールがうまくつながらず、お互いが言い合いになる。チームの中には重苦しい空気が流れた。	・ なんで守備重視の作戦通り動いてくれないんだ。 ・ 守ってばかりでは勝てない。もっと前へ出ろ。 ・ みんなの考え方がばらばらだ。 ・ これではワールドカップに出られない。	・ ちゃんと作戦を教えてあげればいいのに。 ・ どっちの言い分もわかるな。 ・ チームの中で言い合いをしていて大丈夫なのかなあ。 ・ みんなまとまってほしいなあ。	守備側と攻撃側の気持ちを考えさせることで、お互いの考えを理解できずに不安になっていく選手の気持ちに共感させる。 ○チームに重苦しい空気が流れたとき、選手たちはどんな気持ちだったでしょう。
・ 勝利への不安を感じた選手たちは、積極的に話し合いを持ち、意思統一を図ろうとする。そしてお互いの考えを理解し合い、作戦の共通理解のもとチームワークを高めていく。	・ 勝ちたい。 ・ チームが勝つために、何とかしなくては。 ・ 話し合って、勝てる作戦を立てよう。 ・ 心を一つにして、同じ作戦で動こう。	・ 話し合いをすることになってよかった。 ・ 話し合いが苦手な選手も積極的に参加したんだ。 ・ みんなの気持ちが一つになってよかったな。 ・ 話し合うことは大切なんだな。	代表チームの一員として、チームが勝つために意思統一しなければならないと主体的に考え始めたメンバーの気持ちに共感させることにより、チームの向上に主体的に関わることの大切さに気付かせ、価値をとらえさせる。 ○選手たちはどんな思いで話し合いに参加したのでしょう。
・ 話し合いを経た日本代表チームには強い結束が生まれ、バーレーン戦、北朝鮮戦で勝利し、ワールドカップ出場を決めた。	・ 勝ってうれしい。 ・ 話し合って、作戦や動き方が分かったから勝てた。 ・ 話し合いをしてよかった。	・ 勝ってよかった。 ・ チームワークがよくなると強くなるんだな。 ・ あのときみんなで話し合ってよかったな。	主体的に話し合いを行い、意思統一を図ったことが勝利につながったことに気付かせ価値を深める。 ○バーレーン戦に勝った時の選手たちはどんな気持ちだったでしょう。

（6）　展開

ねらい　集団の一員として、集団の向上に主体的に関わって協力していこうとする心情を育てる。（4－（1））

	学　習　の　流　れ	予想される児童の反応	支援の手立てと評価の観点
気づく 5分	1　サッカー日本代表チームの様子のビデオを見て、感じたことを話し合う。	・　真剣そうな表情だ。 ・　気合が入っている。 ・　すごい観衆だ。	・ワールドカップの第1戦で入場してくる選手の様子や会場の雰囲気を見せ、ワールドカップに出場するということの意味の大きさを感じ取らせ、資料への動機付けを図る。
と ら え る 27分	2　資料を読んで話し合う。 「これならいけそうだ」という手ごたえをつかみ始めていたときの選手たちはどんな気持ちだったと思いますか。 ⇩	・これだけ練習したんだからもう大丈夫だ。 ・今度は勝てそうだ。 ・自信が出てきたぞ。	・守備中心の練習を徹底し、連敗を脱出できそうだと希望をもって努力している選手の前向きな気持ちに共感させる。
	チームに重苦しい空気が流れたとき、選手たちはどんな気持ちだったのでしょう。 ⇩	・　みんなに気持ちがばらばらだ。 ・　これではワールドカップに出られない。 ・　もうだめだ。	・守備側と攻撃側の立場に立たせ、それぞれの考えを言い合わせることで、お互いの考えを理解できず不安になっていく選手の気持ちに共感させる。
	選手たちはどんな思いがあったから話し合いに参加したのでしょう。 ⇩	・勝ちたい。 ・チームが勝つために自分も何とかしなくては。 ・話し合って、作戦を立てよう。 ・心を一つにして、同じ作戦で動こう。	・チームが勝つために意思統一しなければならないと主体的に考え始めたメンバーの気持ちに共感させることにより、チームの向上に主体的に関わることの大切さに気づかせ、価値をとらえさせる。
	バーレーン戦に勝った時の選手たちはどんな気持ちだったでしょう。 ⇩	・　勝ってうれしい。 ・　話し合って、作戦や動き方が分かったから勝てた。 ・　話し合いをしてよかった。	・メンバーが主体的に話し合いを行い、意思統一を図ったことが勝利につながったことに気付かせ、価値を深める。
み つ め る 8分	3　本時の価値にてらして、これまでの自分の生活を振り返る 。 話し合ったり協力し合ったりして、よかったことはありますか。	・ウォークラリーで分からなくなったとき話し合ってゴールできた。 ・出し物を決めるとき、話し合って楽しい出し物に決まった。 ・協力してテントを張ったら早く出来上がってよかった。	・集団の向上のために行ってきた経験を道徳ノートに書かせることで、自分の生活を振り返らせ、ねらいに迫りたい。 ◎本時の価値を今までの自分と照らし合わせて、自分を見つめることができたか。　〔道徳ノート〕
あたためる 5分	4　ミーティングの後の、ワールドカップ出場を決めた試合の様子をビデオで見る。	・　チームが一つになって勝ててよかったな。 ・　協力し合うと、みんなが力を発揮することができるんだな。 ・　自分たちも心を一つにしてがんばろう。	・息の合った試合の様子を紹介することで、自分も進んでみんなと協力していこうという心情を持たせる。

6　総合単元の評価－集団の活動に進んで参加し自分の役割と責任を果たすとともに、協力してよりよい生活を築いていこうとする態度が育ったか。

（各行事での様子、帰りの会での発表、学習時間や休み時間・係活動の観察、日記等）

板書計画

チームが一つになった夜
―サッカードイツワールドカップへの道―

自信を失いかけていた

「これならいけそうだ」

もう大丈夫だ
今度は勝てそうだ
自信が出てきた

相手ゴール

言い合い

日本ゴール

重苦しい空気

みんなばらばらだ
これでは勝てない
もうだめだ

話し合い

「おお、やろうよ」

勝ちたい
何とかしなくては
作戦を立てよう

チームがひとつになった

お互いの考えを言った
作戦を決めた
目標を確認した

バーレーン戦勝利

うれしい
話し合ってよかった

ワールドカップ出場

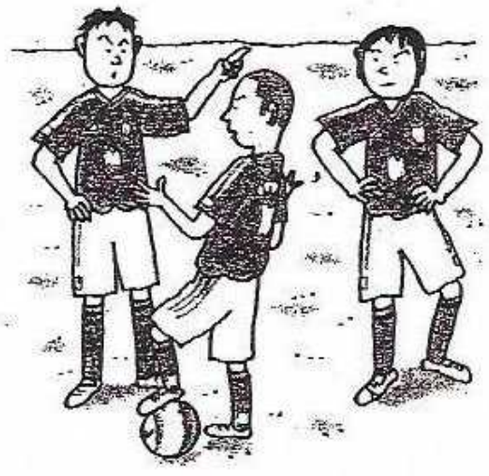
「チームが一つになった夜」

―サッカードイツワールドカップへの道―

二〇〇五年六月三日のドイツワールドカップアジア予選・対バーレーン戦。この試合に勝てば、次の北朝鮮との試合で、勝ちまたは引き分けで、ワールドカップ出場を決めることができる。まさに、予選突破のかぎをにぎる重要な試合である。しかし、日本代表チームは、直前のペルー戦、UAE（アラブ首長国連邦）戦で連敗。重要な試合を前に、選手たちは、自信を失いかけていた。

バーレーン戦の事前キャンプ地、アブダビでは、運命の試合に向けて、キャプテン宮本恒靖選手を中心に、厳しい練習が行われていた。

選手たちは、これまでの連敗から、守備を重視した試合をしていこうと考えていた。守る位置や動きなど一人ひとりの役割や、選手同士の連携をくり返し練習し、「これならいけそうだ」という手応えをつかみ始めていた。



運命の日まであと3日、いよいよ中田英寿選手や中村俊輔選手ら、海外で活躍している選手たちが合流してきた。

さっそく、試合形式の練習が行われた。中田選手ら攻撃陣がゴールをねらう。宮本選手ら守備陣も練習してきたことを生かし、懸命に守り、攻撃陣につなごうとした。しかし、守備陣と攻撃陣の間が広く空いてしまい、うまくボールをつなぐことができない。これは、守備陣がこれまでの練習でもってきていた「点を取られないように、あまり前に出ないで、しっかり守ろう」という共通意識を、後から合流した攻撃陣は知らずに、「どんどん前へ攻めて、とにかく点を取ろう」という気持ちでプレーしていたことが原因だった。そしてついに、守備陣と攻撃陣が「この辺りで守って、敵からボールを奪ったほうがいい」「いや、もっと前に出て守るべきだ」と互いに激しく言い合いを始めた。

また、さらに、実際にチームとして練習をしてみて、「こういうときには、どう動くのか」というような疑問点も、たくさん出てきた。選手たちは、それぞれ日本代表に選ばれるほどの技術をもった、一流の選手ばかりだ。

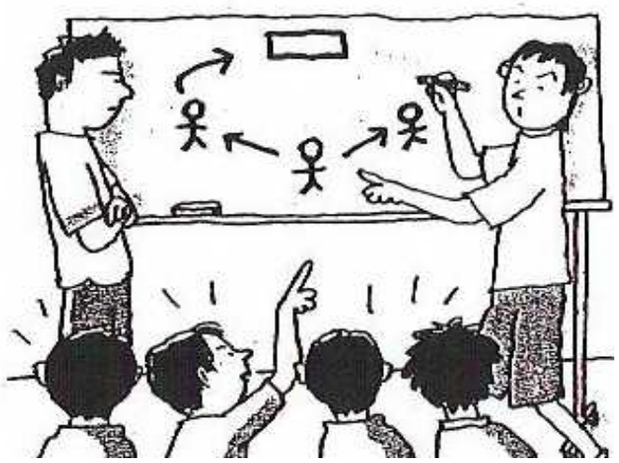
しかし、チームの中での一人ひとりの役割に対する考え方が違うため、力を発揮しきれないでいた。「このままで勝てるのだろうか」大事な試合を前に、チームの中には、重苦しい空気が流れていた。

キャプテンの宮本選手は、「大事なのは選手間の意思統一だ。問題をはっきりとさせ、チームを統一することが、自分の役割だ」と考えた。

その日の夜、宮本選手は、食事を終えた選手たちをリラックスルームに集めた。ふだん、話し合いなどが苦手な選手も、このときばかりは「おお、やろうよ」と、全員が積極的に参加した。

「今の状況をどう思うか」宮本選手は、みんなに切り出した。長い沈黙の中、「みんな本当にワールドカップに行きたいのか」という一人の選手の発言が、みんなの、一つのチームとして戦う気持ちを、改めて呼び起こした。

そして選手たちは、ホワイトボードに図を書きながら、それぞれが思うことをぶつけ合った。プレーの内容を具体的に話し合い、どういうときに、どこで、誰が、何をするか、選手一人ひとりの役割をはっきりさせていった。「このメンバーでワールドカップ行こう」最後に、選手全員で導き出した合言葉が、チームを一つにした。



立ち直るきっかけとなったのは、この五月三十一日のアブダビでの夜の話し合いだった。「あれでチームは一丸となった」選手たちは口々に言う。日本代表チームには、宮本選手が「もうその後には、ミーティングをしないでいいほどだった」とふり返るほどの強い結束が生まれた。一丸となったチームは、二〇〇五年六月三日、バーレーンを一対0で下した。そして六月八日、バンコク（タイ）で北朝鮮に二対0で勝利、三大会連続となるワールドカップ出場を世界で一番最初に決めたのである。

道徳ノート　（　月　日）

「チームが一つになった夜」

―ドイツワールドカップへの道―

組　番　氏名

話し合ったり　協力し合ったりして、よかったことはありますか。

感想（お話から感じたこと）

ふりかえり◎○△		考える
		話す
		聞く